

平成20年 第4回
教育委員会定例会会議録

平成20年4月8日（火）

港区教育委員会

港区教育委員会会議録

第2256号

平成20年第4回定例会

日 時 平成20年4月8日（火） 午後3時03分 開会

場 所 教育委員会室

「出席委員」	委 員 長	澤 孝一郎
	委 員	五味原 康
	委 員	小 島 洋 祐
	委 員	横 矢 真 理
	教 育 長	高 橋 良 祐

「説明のため出席した事務局職員」	次 長	川 畑 青 史
	参 事	山 本 修
	学校施設計画担当課長	野 澤 靖 弘
	学 務 課 長	安 部 典 子
	生涯学習推進課長	佐 藤 國 治
	図書・文化財課長	森 信 二
	指 導 室 長	加 藤 敦 彦

「書 記」	庶務課庶務係長	岡 田 圭 子
	庶務課庶務係	常 盤 茂

「議題等」

第1 会議録の承認

第2251号 第1回定例会（平成20年1月22日）

第2 教育長報告事項

- 1 平成20年度学級編制などについて
- 2 港区青少年委員の委嘱について
- 3 港区体育指導委員の委嘱について
- 4 生涯学習推進課の平成20年3月事業実績について
- 5 図書館・郷土資料館の3月行事实績と4月行事予定について
- 6 教職員の人事異動について
- 7 指導室4月事業予定について
 - （1）学校教育の環境整備について
 - （2）社会教育の施策について

「開 会」

○澤委員長 それでは、平成20年第4回港区教育委員会定例会を開会させていただきます。

教育委員会の数え方としては第4回ですけれども、新しい年度としては実質今日が最初ということで、私、前回の教育委員会で小島前委員長の後を継ぎまして、この1年間、委員長をやらせていただきますけれども、よろしくお願いいたします。

今日は、中学校の新1年生が嵐の中の船出をして、おかげさまで昨日は小学校ということで新しい年度がスタートいたしまして、1年間、またさらなる港区の教育のためにご尽力いただきたいと思います。

(午後3時03分)

「会議録署名委員」

○澤委員長 本日の署名委員は、五味原委員、よろしくお願いいたします。

第1 会議録の承認

○澤委員長 それでは早速日程に入ります。

まず日程第1の会議録の承認ですけれども、第2251号、平成20年1月22日開催第1回定例会について、承認ということでよろしゅうございますか。

(異議なし)

○澤委員長 ありがとうございます。

第2 教育長報告事項

1 平成20年度学級編制等について

○澤委員長 日程第2、教育長報告事項です。

まず1番目が、平成20年度の学級編制等につきまして、学務課長、お願いいたします。

○学務課長 資料ナンバー1をご覧いただきたいと思います。平成20年度の学級編制等についての資料になっております。

1枚目に総括表という意味で、小中幼の人数の状況を載せております。小学校では平成20年度211学級、6,080名となりました。昨年度の比較でまいりますと、10学級増で在籍者数は143名増になっております。中学校は55学級の1,678名。学級数の増減はございません。生徒数としては、マイナス17名となっております。幼稚園でございますが、幼稚園は35学級で598名でございます。昨年度との比較では2学級の減ということですが、人数は38名増となっております。

1枚おめくりいただきますと小学校の内訳になっております。まず、御成門小学校から順に載せてあります。御成門小学校は1年生が今年度は2学級で、53名になっております。学級数の増減につきまして、平成19年度の比較で右端に載せてあります。

芝小学校は、昨年度と引き続きまして、3年連続で2学級を編制しております。63名の入学者

となりました。

赤羽小学校につきましては2学級となっております、児童数58名という形となっております。

それから、芝小学校と赤羽小学校は抽選の実施校となっております、抽選の状況でございますが、芝小学校につきましては、最終的に17名の方が希望がかなえられず、希望以外の小学校に通うということとなっております。赤羽小学校の方は希望者全員の方、希望どおり入学ができています。

次に、芝浦小学校でございます。芝浦小学校は1年生が3学級になりましたと同時に、2年、3年、4年、5年と全て、1学級増になりまして、一番右端を見ていただきますと5学級増で90名の増です。これ昨年の5月からの比較なので、1年間で90名の児童がふえています。一気に学校の様子が変わるという感じでございます。

御田小学校でございます。御田小学校は今年も2学級を編制しております。63名の入学者です。

高輪台小学校、ここも抽選になりました。最終的には希望される方全員の入学ができております。今年度から教室数の関係でクラス数を抑えております。今年度の2年、3年は3学級編制ですが、今後3学級で入学者が増えますと、入りきれなくなりますので、この学校は2学級でいきたいと考えております。

白金小学校でございます。白金小学校は3学級の96名ということで、例年どおりとなっております。

三光小学校でございます。三光小学校は43名の2学級という形で、これまで1学級がずっと続いておりましたけれども、2学級となりました。

神応小学校は1学級の10名でございます。

港南小学校は3学級、1年生が3学級でございます、やはり低学年になればなるほど子どもの数がふえている地域ですので、上の学年の変更はありませんが、今後も3学級で今後も推移していくのかと思います。

麻布小学校は例年と同様30人前後で1学級を維持しております。

南山小学校でございます。南山小学校は1学級ですが、今年は入学生が多くなって、38名でございます。

本村小学校は、ここも抽選になりましたが、希望者は全員入学できました。2学級の69名ということで、スタートしています。

筈小学校につきましても例年2学級の学校ですので、2学級で54名でのスタートです。

東町小学校につきましては12名という形になりました。

赤坂小学校でございますが、ここは学級減、1学級減っているのですが、例年でまいりますと赤坂小学校は2学級規模の学校なのですが、3年生の転出がございまして1学級になってしまいました。青山小学校は20名1学級という形でございます。青南小学校は3学級で102名となっております。

港陽小学校も例年2学級です。67名です。

小学校全体では、増減を合わせますと、学級数で10学級増で、人数で143名の増でございます。

す。

中学校にまいりたいと思います。もう1枚おめくりいただきたいと思います。御成門中学校でございます。御成門中学校は、今年一番多くの新入生を迎えることになりました。3学級で112名でございます。

三田中学校でございますが、今年は2学級となりました。78名の2学級ということで、クラスの規模としては結構大きくなりました。

高松中学校もこれは例年どおり100名前後でございますので、今年の1年生も同様となっております。高松中学校は抽選になりましたが、希望者の方は全員入学している状況になります。

港南中学校は1学級27名ということになります。

朝日中学校でございます。朝日中学校は20名で1学級になっております。

六本木中学校、ここも抽選をいたしました。全員希望者の方は入られている状況でございます。抽選を行いました。46名という数字で、設定の70に届かない数字になってしまいました。

高陵中学校も抽選を行いました。全員、希望者の方は入っておられます。2学級で52名という形になっております。

赤坂中学校でございます。赤坂中学校は1学級の29名という形になっております。ただ全体としましては22名増という形で出ていますので、昨年度から1年かけて22名ふえているということでございます。

青山中学校でございます。青山中学校も2学級、全学年2学級となりまして、大体40名から50名の間で2学級編制の学校になってまいりました。

港陽中学校につきましては8人という形で1学級でございます。2年3年を見ていただきますと37、32ありましたので、こういう数字が出てくとは思わなかったのですが、今年はちょっとこの数字を読み切れません。ちょっと意外な数字が出ております。結果として、学校の生徒数としては14名減という形になっております。中学校全体では、学級数の増減はなしで、全体として17名が減っているということでございます。

次に幼稚園でございます。幼稚園は余り大きな変動はないのですが、赤羽幼稚園は全体で3人減という形でございます。

芝浦幼稚園はこの間4歳児と5歳児の定員を50名に拡大いたしまして、クラス規模自体は維持しておりますので、4学級で100人の定員となっております。在籍者数としては25名ふやしている状況であります。

高輪幼稚園につきましては、4歳児が20人ということで1学級編制になりまして、昨年度と比較して、1学級減という形になっております。

白金台幼稚園につきましても、4歳児の学級編制が20名という形になりまして、1学級減という形になっております。

三光幼稚園につきましては、例年と余り変わらない規模での4歳5歳という編制になっております。

港南幼稚園につきましても、定員を4歳と5歳が50名に拡大しております。定員100名の園

でございますが、現在の園の希望としては69名という形で、昨年と余り変更はありません。

麻布幼稚園につきましても7名減という形になっておりますが、学級規模は変わっていません。5歳児が9名というのがちょっと少ない気がします。

南山幼稚園につきましても、昨年度と学級規模は変わっておりませんが、お子さんの方が7名増という形になっております。

本村幼稚園につきましても、昨年同様の規模でございます。全体として7名減という形になっております。

中之町幼稚園につきましては、3歳児の定員を今年から15名から20名ということで5名増しておりますので、そこがふえているというのがございます。11名増という形でございます。

青南幼稚園につきましても、10名子どもはふえておりますが、規模的には変わらずということでございます。

にじのはし幼稚園につきましては、3歳児が20名入ってまいりました関係で、昨年度と比較して、人数が8にふえているという形になっております。

トータルしますと、幼稚園の方は2学級減で、定員の方は16名ふえ、在籍数も38名ふえているという状況になっております。

最後に特別支援学級でございます。特別支援学級は、赤羽小学校の知的障害につきましては、児童数がマイナス2という形で、今年は1年生がいないという形になっております。

本村小学校は2学級のクラス構成をしておりまして、子どもの数としては2名減でございますが2学級規模を維持しているということでございます。学年の構成をみますと、6年生がかなり多いので、来年中学校に上がる時に人数が減ることになりますので、今後就学相談の方で本村小学校の人数的なバランスはとっていきたいと思っております。

青山小学校は昨年と同様1学級編制でございます。

港南小学校の知的障害、これは今年度からの新設でございます。4名という形でのスタートになりました。1学級4名という形のスタートです。肢体不自由でございますが、これは今年度1年生が入学という形で、1学級3名という形でのスタートになっております。

通級学級でございますが、御成門小学校の難聴は3名という形での1学級4名のスタートという形です。言語障害の方は19名でございます。

東町小学校の情緒障害は2学級で11という形になっております。通級学級の方は年度途中でも入級を認めていきますので、今後ふえていく可能性はあるかと思います。

中学校の方の特別支援学級ですが、知的障害で六本木中学校が1学級の6人でございます。

青山中学校は、昨年より学級数が一つふえまして、2学級編制の9名という形での編制になっております。以上、今年度の学級編制の概略でございます。

○澤委員長 ありがとうございます。平成20年度の学級編制等につきまして、学務課長から説明をもらいましたけれども、何かご質問あるいはコメントは。

○小島委員 抽選で結局入れなかったという学校はどこですか。

○学務課長 芝小学校と白金小学校です。この2校が結果として入れなかった方がいます。

○小島委員 芝小学校は何名ぐらいオーバーして、抽選して何名ぐらい入れなかったのですか。

○学務課長 芝小学校は43名の希望があったのですが、19名の方が入れられた形になっております。辞退された方もいらっしゃいまして、その方が7名。結果として希望がかなわなかった方が17名という形でございます。白金小学校の方は47名の希望者がいらっしゃいまして、入れられた方は21名、辞退者がそのうち8名いらっしゃいまして、結果として希望がかなわない、希望していたけれどもかなわなかった方は18名という形になっております。

○小島委員 この二つの学校だけですか。

○学務課長 そうです。

○小島委員 中学校は全員入れたのですか。

○学務課長 そうです。

○五味原委員 この小学校の住民票上の対象はどのぐらいでございますか。何割が公立へ来ましたか。

○学務課長 今年度は住民票上1,387名の学齢児童がいらっしゃいまして、割合としましては77.87%、おおよそ78%のお子さんが公立小学校へ就学しているという形になります。

○五味原委員 中学校はいかがですか。

○学務課長 中学校は住民票上は1,095名いらっしゃいます。公立への就学率はおおよそ47.67%ですから、四捨五入すれば48%という形になります。

○澤委員長 ほかに何かございますか。

○横矢委員 先ほど教えていただきました芝小学校とそれから白金小学校17名と18名が抽選から漏れて入れなかった方は、結果的に多分公立に入られた方はどのぐらいいらっしゃるのでしょうか。ほかの公立に入られたのか、私立に行かれたのか、その辺を知りたかったのです。

○学務課長 ほとんどの方は公立に入られています。個人個人まで追いかけていないのですが、私立小学校の方であれば、繰り上げの辞退者という形で出てきますので、地域の指定校か、もう1回選択し直す形で、公立小学校へ行かれたと考えております。

○五味原委員 従来から、白金小学校、青南小学校というのはほとんど定員いっぱいですよね。今回これが31名、17名減というのは。

○学務課長 白金小学校と青南小学校ですね。白金小学校は卒業した学年、前の6年生になるのですが、117名のお子さんがいらっしゃったのですが、入ってきたお子さんは96名ですから、そこで21減しているわけです。各学年で転出が少しずつあって、結果として31人減という形になっております。青南小学校は、やはりこれは卒業生が98名いらっしゃって入学者が102名でふえているのですが、各学年、少しずつ転出をされているのです。他へ転校されているというところと重なって17名減となっております。

○五味原委員 それでは転入してきたお子さんというのは、白金小学校、青南小学校にはいるのですか。

○学務課長 それはいますが、差し引き転出者の方が多かったということです。

○小島委員 この東町小学校の12名というのは、2年生が12名なのですが、昨年1年生

の入学者は多分もうちょっと少なかったという気もするのですけれども、ほぼ横ばいですか。神応小学校10名というのが、昨年の半分になったのですが、ここら辺はどのような分析になるのでしょうか。

○学務課長 まず大きな要因としては、学齢人口が今年度は28名だったのですが、昨年度は35名でした。

○小島委員 昨年が35名中22名来て、今年は28名中10名。

○学務課長 それで私立へ行かれています方が8名、インターナショナルスクールへ行かれたりとかということで、およそ10名が公立以外に行かれていますので、公立へ行くのが18人ということになります。そのうち10人ですので、頑張っていると考えたいと思います。

○五味原委員 芝小学校の学区域からの就学率というのはどのぐらいですか。

○学務課長 54名、学齢人口がいっぱいいるのですが、芝小学校に行かれていますのは42名です。

○五味原委員 その差のお子さんというのは、いわゆる選択できる学区域からのお子さんと見てよろしいのですね。

○学務課長 差というのは、54引く42ということですか。そのうち、私立等へ行かれた方が6名いらっしゃいまして、42名が芝小学校へ入学しています。

○五味原委員 6名ですか。6名が……。

○学務課長 私立です。

○五味原委員 12名ですから、あと6名が芝小学校の学区域、隣接区域から来たお子さんと見ていいわけですね。

○学務課長 63引く42、そうです。21名が、学区外から入学された方です。

○小島委員 神応小学校と同じような数字でいくと、東町小学校の学齢は何人でしたか。

○学務課長 東町小学校の学齢は今年度45名になっております。昨年度は37名です。

○小島委員 45のうち、私立、インターナショナルスクールに行った子は。

○学務課長 5名です。

○小島委員 5名。そうすると40名が公立。

○学務課長 そうです。

○小島委員 そうすると東町小学校は相変わらず厳しい状況ですね。

○学務課長 東町小学校は昨年は47名です。変わらないですね。

○小島委員 余り変わらない状況が続いているということですね。

○五味原委員 港陽中学校の8名というのは、住民票との上ではいかがですかということが一つ。もう一つは、8名の男子女子の割合はどうなっているのでしょうか。

○学務課長 港陽中学校の学区域には56名の今年度お子さんがいらっしゃいます。私立等へは18名でございます。私立とか他の公立ですね。

○五味原委員 他の公立というのは区内のですか。

○学務課長 中高一貫、他の区へ転出されているとかインターナショナルスクールですとかそういったものだと思います。

○澤委員長 38名がうちの公立ですか。

○学務課長 そのとおりです。

○澤委員長 そのうちの8名だけが港陽中学校に来ているということですね。

○小島委員 港陽小学校の卒業式に行きましたが、私立や国立の制服を卒業式に着ているの子が多かったので厳しいなと思っていましたが、8名というのはちょっと少ないですね。

○五味原委員 今までのパターンからすると、ちょっと違い過ぎですね。男女はどうですか。

○学務課長 男女は、女子が1名と男子が7名になります。

○五味原委員 昔の反対です。

○学務課長 女子が1名という形になりますので、ご本人の方にも確認、保護者の方にも確認、状況をお話しして確認をとりました。それでもご入学の意思はかたいということなので、港陽中学校の方に入学という形になっております。

○五味原委員 どうもここがわかりません。

○澤委員長 学務課長、私の方から一つ。幼稚園の方を聞きたいのです。にじのはし幼稚園が今年から3年保育で、これ学級数が19年度と変わらないのは、どうしてですか。

○学務課長 今年度は学級数が5歳児が22人で1学級という形になっております。これは施設の3歳児クラスは、今年度ちょっと工事が入るものですから、その関係で5歳児を通常は20人で1学級で編制していくのですが、今年度は5歳児が22名で1学級としています。

○澤委員長 1クラスにした。

○学務課長 特例的に22人で1学級にしております。これにつきましては、保護者の方にもご説明を申し上げ、ご協力をいただいているところでございます。実は3歳児クラスをふやしたので増えるはずなのですが、5歳児の方を減らしていますので、学級数は変わらない。

○澤委員長 それともう1件。中之町幼稚園で確か4歳児で待機児童がいるという話が以前の教育委員会でありました。それは結局どうなりましたか。

○学務課長 そのまま保護者の方から特段の連絡はございません。

○澤委員長 ではそれはそれでどこか。

○学務課長 何らかの対応を考えられたと思います。

○五味原委員 要望でございますけれども、港陽中学校の1年生の8名というこの数字です。先ほどの56名が対象者にあるはずである。これをもうちょっと細かく分析をして、来年のために検討する必要があるのではと思いますので、ぜひ分析していただきたいと思います。

○澤委員長 実は私も今日港陽中学校の入学式に行つてまいりました。ぜひとも8名が3年間港陽中学校で満足してというか、そうなるようサポートをぜひともしていただいて、転入生が来れば少しでもふえる、そういうことを願っております。特に女の子が1人というようなこともあって、教育委員会でできることというのは限界はありますけれども、よろしく願いたいと思います。

○小島委員 その点に関して、私、卒業式は港陽小学校に行ったのですが、あそこの地域でまたマシオンが結構ふえるということを聞きましたが、家賃が高いから幼稚園、小学校、中学校のお子さんがある若い両親の家庭は少ないと。

○澤委員長 ああの地域は、佐藤先生、木村先生とか福井先生とお話したのですけれども、ほとんど賃貸なんだそうです。ですから、定住しようという人が余りいない。

○小島委員 入居して何年間は家賃が安く、その後段階的に家賃が上がっていく。家賃のある段階で皆さん引越してしまう。

○澤委員長 ですからなかなか難しいところではありますけどね。

○小島委員 港区の他の公立中学校に来るときはゆりかもめに乗ってくるのですか。

○学務課長 ゆりかもめかバスで浜松町まで行って、他の交通機関に乗り継ぐことになります。

○五味原委員 これはぜひ新任の指導室長にお願いしておきたいのですが、芝小学校、少なくとも5年6年前にはこの程度の人数の学校まで落ち込んでいました。先ほどこの住民票上の数字と両方見ていただければわかると思うのですが、しかし、この学校、教育委員会も一生懸命サポートをした。それによって、ここまで増えているのです。ぜひこの辺のノウハウをどのようにしてやってきたのか、また我々教育委員会がいかようにサポートをすれば、地元のお子さんが学校に就学してくれるのかというのを一度ぜひ検討しておいていただきたいと思うのです。これは要望でございます。よろしくお願いいたします。

○教育長 全体的なことですが、小学校は平成20年度が久しぶりの6,000人台ということです。この6,000人台というのは平成7年のレベルなのです。平成7年のレベルまで小学校の方は人口回復も含めて、効率への就学率は下がっているとは思いますが。それにしても平成7年度レベルの6,000人台まで回復しています。

ただ、中学校の方はまだそこまで至らないということで、中学校のよさですね。今日、各委員も各中学校の入学式に行っていたと思うのですが、私立に負けない立派な入学式がどこでも行われたと思います。教育内容についてもしっかりやっている中学校ですので、ぜひその辺をしっかりとアピールしながら、ぜひ公立のよい教育の場で学んでほしいということを、中学校ともども一緒に教育委員会もやっていきたいと思っています。

○小島委員 中学の朝日ですが、これはまあまあという数字なのかなという気もしますが、朝日中学は学齢人員は何人ぐらいですか。

○学務課長 朝日中学校は、学齢人口は87名です。中学校は選択制で全学区から選べるようになっていますので、学区の学齢人口の数は分析に当たっては、小学校ほど大きな要素にならないかという気がしています。

○五味原委員 魅力があればふえるのです。

○小島委員 学校選択希望制について見直すべきだという意見の関連で、小学校中学校とそれぞれ2校ぐらい心配な学校がありますが、それとそこら辺をどうするか。先ほど、五味原委員からふえた学校のノウハウをどうするかという話を今後検討していかなくてはいけないと思います。

○五味原委員 ふえたノウハウをいかによりそで使うかの問題です。

○学務課長 朝日中学校の学齢人口は87名ですが、40名が公立に進んでいます。

○小島委員 40%しか公立に行かないのですか。

○五味原委員 それと港陽中学校が一番ポイントです。

○澤委員長 厳しい数字ですね。

○五味原委員 また昔に戻りました。開校以来の。

○小島委員 前に女の子だけしかいなかったという時期がありましたね。

○五味原委員 ありました。これではまるっきり開校時の綱渡りと同じですよ。

○小島委員 ただ全体的にはよく頑張っている。

○澤委員長 そうなのです、中学校も。学校説明会や何かでみんな一生懸命やっていたという印象を昨年も持ちました。

○小島委員 かつて中学校で、どこか荒れた中学校があったとか、ちょっと問題がある中学校があったと言うことですが、今はないでしょう。みんなそろっていいのではないですか。

○澤委員長 どうなのですか。そろってみんないいという話ですけども、港区の場合は。

○五味原委員 どこまでがいいというのが問題点です。

○教育長 本来、指導室が答えるべきですけども。10中学校ありますが、その10中学校の中で荒れて、学校学習生活や、あるいは校内生活がうまくいかないとか、そういうところは1校もありません。これは全都の公立中学校、各区市町村で一生懸命やっているわけですけども、その中では最も本当に落ち着いた学校が区域内にあるというのは、港区はそのうちの最上位にいるのではないかと思います。これ間違いない事実です。

○五味原委員 そのとおりだと思うのです。今日、私も高陵中学校に行って、特に在校生の動きを一生懸命横目で見えていたんですけども、非常に姿勢よく話を聞いている。段の上から見ても、みんな姿勢よくちゃんと注目していました。

○澤委員長 小島委員と私はちょうど8年目になりますけれども、最近、中学校の学校訪問に行って授業を見ても、みんな一生懸命きちんとしている。我々が始めた、最初のころは、ちょっとどうかということが数々ありました。

○五味原委員 むしろ中学校よりも小学校の方に乱すお子さんをたまに見かける。いかようにしっかりとサポートをして、教室全体をまとめているか、というのはあるなという気がしましたがけれども、中学校はないです。

○澤委員長 教育長が言っているように、おかげさまで港区の幼小中は比較的好いですね。ですからそれが最終的に数字であらわれてくるとありがたいという、そういう願いもあります。余り欲言ってもなんですが。

○小島委員 年々私立志向が高まっているのかしら。

○澤委員長 それは先ほど教育長が言ったように、小学校からそういう流れがありますね。

○五味原委員 それは私立志向になっているというのは、この前やってきた私立幼稚園の陳情、その他で何う限りにおいて、やはり若くても所得の高い人が非常に多い。ですから、私立幼稚園に行っている方が、あのときの平均で年間、千数百万の所得のある方の子弟が行っている。それと同じように、やはり所得の高い人が多いから、私立にも行かそうと思えば行かせられるという、やはり地域的な問題点が一つあると思います。ですからそれ以上の魅力のある学校にしなければ、なかなか70%80%以上のお子さんが来ないということになると思います。今見ても小学校で80%で

すよね。そうするともう初めから20%は中学で私立に行ってしまうという問題ですからね。この辺が非常に港区の持つ一つの悩みだろうと思います。

○澤委員長 それではありがとうございました。

2 港区青少年委員の委嘱について

○澤委員長 では引き続きまして報告事項の2番目でございます。港区の青少年委員の委嘱につきまして、生涯学習推進課長、よろしくお願いいたします。

○生涯学習推進課長 それでは資料番号2番をご覧ください。平成20年・21年と港区の青少年委員名簿でございます。こちらは港区青少年委員の委嘱についてご報告いたします。

このたび、委嘱期間が平成19年度末で終了いたしましたので、新たに平成20・21年度の2年間について委嘱するものでございます。

まず青少年委員の基本的役割については、地域における青少年指導者または育成者として、教育委員会及び地域の関係機関と連携をとりながら、青少年教育の振興を図るということを目的としております。こちらの推薦母体でございますが、港区青少年対策地区委員会ということで、中学校区での推薦を受けて、教育委員会に上げていただきメンバーを今日、報告するものでございます。

まず、今回5人の方が変わられます。南條弘至さん、青少年委員会の会長でしたが、8期16年務められましたけれども、委嘱時に満60歳未満という規則がございます、定年での退任となります。また、高松地区の繁田ゆみ子さんが3期6年務められ、今回青少年委員から体育指導委員にかわれるということでございます。それから朝日地区の橘田美智子さんは2期4年、赤坂地区の光田稔さんも2期4年、それから青山地区の石川博行さんも1期2年務められ、それぞれお仕事等の都合で今回退任と聞いております。

変わりまして、新任としてこちらの方に書いてございます。御成門地区、森ひとみさんは地区委員会委員ということで、今回青少年育成としてのメンバーに入られました。それから高松地区、綱島ちづ子さん、元高松中学校PTA副会長。それから朝日地区、磯田哲治さん、元三光小学校PTA会長。また小学校PTA連合会の相談役もされています。それから赤坂地区、福原恵美さん、赤坂小学校PTA副会長です。それから青山地区、松本信之さんは、元青南小学校PTA副会長ということでございます。

なお、芝浦小学校のところで推薦が1人あるのですが、まだ調書等こちらの方に上がってきておりません。5月に整いましたら、またご報告したいと思います。以上でございます。

○澤委員長 ありがとうございます。ただいまの青少年委員の平成20年・21年度にやっていたく方の紹介がありましたけれども、何かございますでしょうか。

○五味原委員 まず一つ要望として、次回これをつくるときには、退任者の方も名前を一緒に入れていただきたい、表の中にですね。

○澤委員長 今口頭で。

○五味原委員 口頭でありましたけれども、それですとマイナス5名ですね。新しく5名の方が新任されています。この青少年委員の定員は何名でございますか。

○生涯学習推進課長 規則では定員が27名という形ですが、実際こちらの推薦をいただく人数としては24名ということをお願いしています。

○五味原委員 27名の3名欠員になっているのは、どことどの学区でございますか。

○生涯学習推進課長 欠員と言いますか、それぞれの推薦をいただく人数につきまして、基本的に小学校区でお1人という基本的な考え方と、それから中学校区で小学校が1校ということであると、そこは2名、それからおおよそ1,000名の人数で1名というようなところでの総合的に人数を割り出して、今回24名ということをお願いしているところでございます。前回23名ということで委嘱をしまして、今回港南地区が人口が3,300ですか、ふえてまいりまして1名ふやしています。

○澤委員長 27名というのはどういうふうに決まっているのですか、定員が27名というのは。

○生涯学習推進課長 規則を改正してございませんで、19校の前、規則制定時に学校がまだいくつあった時代にその数が定数であったと思います。

○澤委員長 なるほど。学校の方が数が変わってきた。

○生涯学習推進課長 数が少しずつ減ってきている。

○澤委員長 平成20年・21年度で24名お願いしていて、大体もう全部が出そろってきているので、特に欠員というわけではないですね。

○生涯学習推進課長 あえて言えば、港南地域1名、そこが埋まればということです。

○澤委員長 5月に。

ほかに何かございますでしょうか。よろしいですか。南條さん、会長でしたよね。次期はどなたに。

○生涯学習推進課長 これから青少年委員会の中で決まると思います。

○澤委員長 正式には。ではありがとうございます。

3 港区体育指導委員の委嘱について

○澤委員長 それでは続きまして、第3番目ですけれども、港区体育指導委員の委嘱につきまして、同じく生涯学習推進課長、よろしくお願いいたします。

○生涯学習推進課長 それでは委員会資料番号3番をご覧ください。こちら期間が平成19年度末で終了いたしましたので、新たに平成20年・21年度の2年間について委嘱するものでございます。

体育指導委員の基本的役割は、実技指導だけでなく、みずから事業企画・運営し、さらに地域スポーツ振興の推進者あるいはコーディネーターとしての役割が期待されているところでございます。

こちらの出身母体につきましては、港区の同じく青少年対策地区委員会及び体育協会、こちらからも推薦をいただいているという形でございます。1地区3名ないし4名ということをお願いをしています。前回は27名で委嘱をしてございます。大体1地区3名程度ということですので、全体で30名程度はお願いしているところでございます。

平成18年4月当初、27名で委嘱しましたが、2名が自己都合でお辞めになり、25名でずっ

と来ていたところです。それから平成20年の1月に六本木地区の早川さんが現職でお亡くなりになりました。24名ということです。今回、新任が3名、退任者が5名出てございまして、22名の方が委嘱という形になります。

今回、5名の方が変わられました。まず御成門地区、杉山厚子さん5期10年務められました。こちらでも体育指導委員協議会規則の中で、体育指導員は満63歳に達した年度に属する委嘱期間をもって退任するという規定がございまして、定年退任となります。また、高松地区、佐々木光江さんは5期10年務められましたが、今回定年前ではありますが、東京国体関係でなぎなたの仕事が多忙ということで退任されます。また、御成門地区の田村明代タムラケオさん、こちらは3期6年務められましたが、港区から離れるということの理由で退任をされました。それから朝日地区、伊藤申さんですが1期2年務められました。お子さんができたということで活動が難しいと聞いております。それから、お台場地区の大山誉之さんは、仕事の関係で夜の会議等参加が難しいということで辞退ということを知っております。

新任としまして、表に「新」と載ってございますが、御成門地区、大石孝子さん。こちらはテニス、スキーをなさるということで書類等届けをいただいています。それから高松地区、繁田ゆみ子さん。こちらは青少年委員さんでしたが、バドミントンが得意種目ということで体育指導員としての推薦を受けております。最後にお台場地区、間瀬法美さん。こちらはスキーが得意という届けをいただいております。体育指導委員は以上でございます。

○澤委員長 ありがとうございます。新しい平成20年・21年度の体育指導委員につきまして、今紹介してもらいましたが、何かございませんか。

○小島委員 地域によって指導員の推薦がかなりばらばらなのですが、先ほどの説明ですと、1地区3ないし4名ぐらいでという話でした。各地区で3、4名ぐらい推薦してもらおうと思ったけれども、結果的に3、4名出した地区もあるし、1人しか出せなかった地区もあるというような結果なのですか。

○生涯学習推進課長 委員がおっしゃるとおりでございます。実際に推薦をこちらから3名ないし4名、地区によってお出しいただくというようなことでお願いをしているのですが、やはりお1人であったり、2人であったりということで、これからまた順次ご推薦いただいてやっていきたいと考えています。

○小島委員 その推薦と言うのですけれども、先ほどのお話ですと、青少年地区委員会から推薦してもらおうというお話でした。

○生涯学習推進課長 まず体育指導委員さん、現在務められている体育指導委員さんには継続されるかどうか確認をしまして、確認と言いますかお願いをしまして、地区委員会のそれぞれの地区委員、中学校の地区委員会にご推薦いただけてくださるというような形でお願いしているケース。それから、新人の方についてはもう直接地区委員会にご推薦くださいというケースと、それから体育協会の方にどなたか推薦をいただくケースがあります。

○小島委員 いろいろなところからですか。

○生涯学習推進課長 いろいろなパターンがございます。

○五味原委員 青少年委員として、区がお願いしている団体がある。一方、青少年地区委員会というのはどういう立場なのですか、青少年委員と地区委員会の違いは。

○生涯学習推進課長 青少年委員さんについては、こちら教育委員会が委嘱をして、非常勤公務員さんとしてお願いしているところなのです。地区委員会はそれぞれの地区で、中学校区からできている、それぞれの地元の組織です。その中に青少年委員さんも中にメンバーとして入って活動されたりするという、そういう構造、組織になってございます。

○五味原委員 そうしますと、体育指導委員の推薦については、なぜ地区委員会にお願いするという形になっているのですか。何かそういう条文があるのですか。

○生涯学習推進課長 やはり地区ごとのスポーツの振興であったりそういうことで、その地域を母体にご推薦いただいているということがあります。青少年委員も、先ほどのちょっと言及しますと、地区委員会に推薦をお願いするのですが、その推薦委員会というそういう組織をつくっていただくのです。青少年地区対策の委員のほかに、学校長あるいはPTA会長で組織するのです。そういった推薦の母体を持ってやっていただくというのが青少年委員の場合はあります。体育指導委員についてはそこまでの組織はないのです。地区委員の方をお願いをしてどなたかということで、そのレクリエーション、スポーツ関係の団体やそういうところからある程度出されているから、少し青少年委員と異なる形でのお願いをしているところもございます。

○五味原委員 その地区委員会というのは、何に基づいて、どういう立場にある団体なのですか。

○澤委員長 管轄が違うのですね。

○生涯学習推進課長 今、子ども課の方に組織がありまして、そこで会長というのですか、全体の、としてやっている組織でございます。それが地区ごとに中学校区にそれぞれの青少年対策地区委員会というのが設けられています。そこでの活動という形になろうかと思えます。

○澤委員長 いろいろな地域の行事などもやっていて、赤坂の例をとると、いろいろな方がメンバーになっていて、すごく数が多いのです。ですから佐藤課長が言われているように、そこに頼めば推薦してくれる可能性も高いということもあるのでは。

○五味原委員 ただ、なかなか上がってこないところもあるのですね。非常にこの辺がいい面もあるけれども、悪い面も出ているのですね。

そういう意味でいきますと、一度これは今のように地区委員会は行政の中で子ども課の方に移っている。これによって、この団体に推薦をお願いすることが以後もいいのか、それともいかなうな形で推薦をお願いして、十分な定員というか、人を確保していくかという問題点を検討する必要があるのではないのか。ただただ組織は変わりました、部門も変わりました。推薦をお願いする団体についてはそのまま。特に、体育協会はまだしも、一部職務が変わってきている状況ですよね。この辺は十分に検討して、早く次の体制を考えていく必要があるのではないかと思います。これでいいのか悪いのか、結論を出す必要があるのではないのか。

○教育長 先ほどの青少年委員とこの体育指導委員の違いはさまざまあるのでしょうけれども、青少年対策地区委員会というこの組織の中には、青少年委員も入っていますし、児童委員、民生委員も入っていたり、さまざまな中学校区を一つの組織としてさまざまな方々がお入りになっていると、

そういう組織なわけです。先ほど佐藤課長が話をしましたが、青少年対策問題協議会という、これは区長が会長で私が副の方をやっているそういう会がありますけれども、その中の一メンバーとこうなっているわけですね。この体育指導委員についても、青少年委員についても、非常勤の公務員ではありますが、多くはボランティア的、そういった精神がないとなかなか続けられない。この中でも12期務めていただいている方もいらっしゃる、大変頭が下がる思いなのです。この方々に、やはりこの活動をしていただくための魅力というのですか、これもやはり一つはやはりサポートしていく上では考えていかなくてはならない。

ですから、生涯学習の方でも、この体育指導委員会や、あるいは青少年委員会を担当しているわけですから、毎回いろいろな要望もいろいろ話し合いの中であると思うので、それぞれの意見を十分にやはり区民の意見を聞いて、そしてその魅力が増すように、そしてこの指導委員がやはり意義を持って十分に社会貢献していただくようなサポートをやはりこれからも続けていく必要があるのではないかと。やはりそのためにはやはりしっかり意見を聞くということも大切なのではないかと思っておりますので、その辺、生涯学習の方で十分今年はそういったことに心がけて推進もらいたい、そのように思いますが、いかがでしょうか。

○澤委員長 そうですね。そのとおりだと思います。

○小島委員 綿引さんが会長をしているスポーカル六本木。それと今後の体育指導委員のあり方ですが、両者は併存するということですか。将来的には、六本木の総合型とこれとどういう関係になるのでしょうか。

○生涯学習推進課長 今回、六本木地区総合型地域スポーツ・文化クラブ、昨年11月に立ち上がりましたが、やはり体育指導委員の方が中心になって、立ち上げるためのいろいろな研修等をまけて、綿引会長がリーダーシップを発揮されていくような形で立ち上げました。次の地区もそういった意味では、体育指導委員の方がイニシアチブをとってやっていく形になっています。それを行政がサポートするという形になろうかと思います。

それで、六本木地区も現在は、早川さんがお亡くなりになられて2人です。ですから六本木地区はそういう意味で人数をもう少し、体育指導委員の推薦を早めにいただいて、スポーカル六本木を盛り上げていかなくてはならないと思います。

○小島委員 そうすると、今後各地区に総合型スポーツクラブをつくるとすると、この体育指導委員の方々が中心となってつくっていくということになるわけですね。

○生涯学習推進課長 立ち上げるには準備委員会とかいろいろ会議体を持ってやっていきます。そのときに体育指導委員の方、プラス、先ほど地区委員会の会長さんを司会に立てて、議長に据えて、会議を進めて、地域の方がそこに参加できるような仕組みをつくってやっていくというのがポイントになるのかと考えます。

○小島委員 そうであれば、各地域の体育指導委員が充実しなくてはならないと思います。例えば朝日とか赤坂が1人というのは将来的に何となく心配というような気もするので、もうちょっとあちこち当たって、体育指導委員をふやして、今後の総合型スポーツクラブに向けて準備された方がいいのではないのでしょうか。

○生涯学習推進課長 中学校ごとに立ち上げるかどうか、今後ちょっと六本木の様子を見ながら、少し検証しながらやっていく必要があるのかと考えていますけれども、やはり定数の3～4人に対して1人だけの体育指導委員しかいないというところはかなり厳しいと考えますので、そこはなるべく早く参加できるような形に持っていければと考えています。

○澤委員長 よろしゅうございますか。

教育長が言ったように、こうやってほとんどボランティアでやっていただくというそういう方々に使命感といいますか、あるいは達成感みたいなものがあるようなそういう形で、教育委員会としても持っていくことが大事なのだろうと思います。佐藤課長、その辺よろしく願いいたします。

4 生涯学習推進課の平成20年3月事業実績について

○澤委員長 それでは資料ナンバー4でございます。生涯学習推進課の3月の事業実績。これは基本的には資料の配布をもって報告とさせていただきますけれども、特に何か佐藤課長、PRしたいことがありますか。

○生涯学習推進課長 何点かございます。

麻布運動場でございますけれども、今年は3月から野球を始めましたので数字が入ってございます。39件、701人という形です。運動場利用集計表を見ていただきたいと思います。

○澤委員長 麻布の野球場が改修中でしたね。

○生涯学習推進課長 1月から3月は中止期間という形だったのですが、3月は温暖化傾向もありますので、できるようにしました。

○澤委員長 利用率を上げ、区民のために有効活用ということですね。

○生涯学習推進課長 利用したいということで、こちらが700名。17.6%伸びているうちの5%から6%部分の寄与度があるのではないかと考えております。

それから、芝公園多目的運動場で、件数で言えば163.72%、それから人数で154.09%ということで伸びがございます。こちらも平成18年度の10月にオープンでございましたので、この分、18年の前半部分が欠けてございますので、19年度は、この部分の数字の差が大きいのかと分析をしております。4月から9月分、数字的には7,325人ふえてございます。その部分は48.5%分増と考えてございます。あとはその部分の利用率が全体の合計にあらわれているのかと考えてございます。ここをちょっと特出するべき点としてちょっとご報告です。

○澤委員長 ありがとうございます。それでは、この件につきまして何か。

○五味原委員 このスポーツセンターの利用集計表で見ますと、体育事業、体育協会、それから高齢者・身障者、この部分が前年比80数%から下は71.55%と下がっているのですが、これは何が考えられますか。

○生涯学習推進課長 合計最大数値が100%、ほぼ前年と同じ水準なのですが、高齢・身障者について、高齢者部分、65歳以上の方の減免規定を見直しを平成19年4月からさせてもらいました。昨年それは報告したところでございます。区内在住の方について減免ということなので、在住でない方、区外の方については使用料が発生しますので、その分ちょっと抑制効果が働いたの

かと分析しております。こちらが個人利用の方に回っていると考えております。

○澤委員長 今佐藤課長の話だと、65歳以上は、従来は区民でなくても減免があったのですか。その辺がはっきり理解していなかったのだ。

○生涯学習推進課長 高齢者と身障者という、カードがちょっと一つのものでやっているのそこは分けてはいないのですが、高齢者の部分で65歳以上の方について、区内在住の方ですと減免がございますのでよろしいのですけれども、区外の方は減免がきかないので、スポーツセンターに入るときに700円の利用料というのが出てきます。

○澤委員長 わざわざ高齢者と言うよりも、個人でという方もかなりいるのではないかということですね。

○五味原委員 そうすると、個人の方の数字はカウントされているのですか。

○生涯学習推進課長 もしカウントするとすれば、個人利用の方に入ってきている形になっております。

○五味原委員 体育協会は。

○生涯学習推進課長 体育協会は、若干人数がそれぞれの事業について少しちょっと減っているようなことを伺っています。それからあと7月8月でしたか、選挙の関係で少し利用が落ちたということも伺っております。

○五味原委員 体育事業はいかがですか。

○生涯学習推進課長 体育事業についても少しずつ参加が減っているという話を聞いております。

○五味原委員 選挙のためですか。

○生涯学習推進課長 選挙の影響もあります。

○五味原委員 私の質問は、83%、83から71%で、この三つについては何が減っている原因かを伺っている、どう思われますかということです。

○生涯学習推進課長 こちらは利用人数ですので、参加人員が少し、それぞれの事業の参加人員が減っているということです。

○五味原委員 事業数は変わらないということですか。

○生涯学習推進課長 前回の参議院選挙において日程が延びたりなどした。利用の多い日曜日とかおさえていますので、その前後利用できないということがありました。

○五味原委員 こういうことですね。体育事業、協会事業については、一部選挙期間中ということで遠慮してというか、中止その他が出てきて、最終的に事業数が減っていると考えればよろしいのですね。

○生涯学習推進課長 はい。

○澤委員長 ほかにございますか。よろしゅうございますか。

これは3月からですか、多分各運動場ともそうなっているのだと思いますけれども、インターネットでいよいよ予約できるようになりましたね。その反応というのは何かありますか。

○生涯学習推進課長 それぞれ一年間かけて、インターネットを使いたいという方が登録してくださいと呼びかけしております。窓口はそんなに混雑ということはないと聞いています。あと利用は

便利になったということをお聞きしています。

○澤委員長 私も個人的ですけども、先日、インターネットで今度できるようになったというので、うちのパソコンから入ってみたらちゃんと入れて、これは便利だと思いました。稼働したばかりなので、いろいろ区民の方から、利用者からご意見もあるかと思いますが、より良いものにしていくようによろしくお願いします。

ではよろしゅうございますか。

5 図書館・郷土資料館の3月行事实績と4月行事予定について

○澤委員長 それでは5番目でございますけれども、図書館・郷土資料館の3月行事实績と4月行事予定につきましては、これは資料をもって報告といたしますけれども、何か特にPRすることがあれば言ってください。

○図書・文化財課長 赤坂図書館もきれいになってオープンもいたしまして、利用者也順調に伸びているようでございます。それとあと図書につきまして、図書資料、インターネットでの予約がかなり普及してまいりまして、窓口のご予約よりも大分そちらの方にシフトして普及、しやすくなっている、ご利用しやすくなっているという傾向が出ているところです。

それから、今現在、郷土資料館の方で「赤坂檜町の三万年」という特別展示を3月中旬から開催しておりますが、なかなか好評だということで、利用者もいらしてくれています。今年度また特別な講演として、今『篤姫』がNHKの大河ドラマでありますので、港区の藩のお屋敷があつて、そこに篤姫が逗留した経過が、ゆかりがあるということで、講演を5月から数回にわたって予定しているので、またそれも後ほどPRさせていただきたいと思っています。よろしくお願いいたします。以上です。

○澤委員長 ありがとうございます。それでは今の報告に対して何かご質問等ございますか。

○教育長 質問とかいうことではなくて、今、図書館長の方からありましたけれども、本当に赤坂はリニューアルしたということで、図書は128%あると、これはかなりの数です。港南が120.5%という、やはり人口増に比して、港南図書館の利用者が本当にふえております。そういう意味で、年間の集計を見ながら、中央館、地域館、それぞれさまざまな分析を行って、資料の充実というものを図っていく必要があるだろうと思います。本当にたくさんお出かけいただいて、利用していただくというのは、本当に大変ありがたいことなので、それをさらに質の向上ということで、こういう資料の分析に基づいて行っていくことが必要かと思います。

○澤委員長 ほかにございますか。

森課長、今の教育長の話の補足ですけども、この利用集計表で、いろいろ伸びているのですけども、どこの館でもDVDが結構伸びていますよね。これは前にも話があったのですが、宮内課長のときから。DVDは図書館としてもどんどん今後充実する方向で予算等もついているのでしょうか。

○図書・文化財課長 今のところ予算は順調に伸びていまして、図書館基本計画で、収蔵数とか伸ばしていくと、資料充実がありますけれども、DVD資料については、今レンタルビデオとかそう

いうのもかなりありまして、図書館として必要な、どういうものを資料として収集するのかをよく検討したうえで充実していきたいと考えております。そういう意味で、皆さんに目に届くところでそういうものを用意するというのは図書館の使命だと思っておりますので、そういった意味では充実させていきたいということです。

○澤委員長 もう1件お聞きしたいのは、この資料の集計表の中の予約数というのがありますよね。この予約数の集計というのは、何かインターネットとか、あるいは予約した数を集計しているということなのですか。

○図書・文化財課長 そうでございます。予約冊数です。

○澤委員長 これがあるのは何か意味があるのでしょうか。利用集計以外に、この予約数というのが資料としてあるのは。

○図書・文化財課長 一応今図書資料につきましては、貸し出しは、お1人様10冊までという制限を設けておりまして、予約も10冊ということで、次回の予約ということでお承りをしております。それで、人気のある新刊とかそういうのになると、かなり予約が重なって、本当に人気のあるものになると、数ヵ月から1年近く待たないと順番が回らないと、そういう状況が発生することがあります。ですので、図書館の方の資料をどういうふうに収集し、どれぐらいの複本といいますか、同じタイトルのものをどれぐらいそろえるかとかというのも、こういう予約の方からお取次ぎをしながら選書していくということがございます。そういう意味では、予約というのも大事な情報になります。

○五味原委員 確かにそうです。

○教育長 収蔵の図書資料などは82万9,491冊。これは105.1%の増になっているのです。港区の人口割に比べて、この82万9,000冊というのは、他の区市と比べてどの程度のところにいるのか。そういったことも今度何かのときに報告でもしていただいたら。

○図書・文化財課長 今見ていると、集計の仕方として、昼間人口の割合と夜間人口の割合で収蔵する、1人当たりどのぐらいかというのを見たときに、夜間人口ではかなり上位です。

○澤委員長 それは23区ということですか。

○図書・文化財課長 23区の夜間人口割りベースというのは多分多いのですが、昼間人口はご承知のとおり、85万人からの昼間人口ということになりますので、そういう意味ではかなり下の方になってしまうという状況があります。

○澤委員長 よろしゅうございますか。ありがとうございます。

6 教職員の人事異動について

○澤委員長 それでは、6番目ですけれども、教職員の人事異動につきまして、指導室長、よろしく願いいたします。

○指導室長 お手元の資料6をご覧くださいと思います。表のまず枠組みですが、校長・園長、副校長・教頭、3番目が教員（小学校）です、4番目が中学校の教員、5番目が幼稚園教員、6番目が事務・栄養士というのが枠組みで数値を挙げさせていただきました。

まず校・園長でございますが、転出、小学校6名、中学校2名、計8名。転入、小6、中2、幼稚園0です。併任園長の方は昨年と同様、この表から除いております。2番目、副校長・教頭でございますが、転出、小学校4、中学校2、計6でございます。転入は小学校4、中学校2、幼稚園2でございます。この幼稚園につきましてははじのはし幼稚園と麻布幼稚園ということで新設教頭を新設したということで2名になってございます。それから3番目の小学校の教員でございますが、退職・再任用満期以下、左側にある項目の合計が44名転出でございます。転入が50名ということで、数字的には6名増と見えております。

これ主な理由は、先ほど学務課長の方からご説明があったように、学級増の部分と、それから過員がございましたので、その配置をしたということで6名ふえてございます。それから4番目の中学校の教員でございますが、転出が合計25名、転入が23名です。これにつきまして2名減ということでございますが、主な理由としましては学級の増減、それから今度は逆に過員の解消等がございますので2名減ということになっています。それから5番目、幼稚園の教員でございますが、17名転出、転入14名。これにつきましては新教頭を新設した分2名分と、それから学級の減の部分増で1名、合わせて3名減になってございます。6番目、事務・栄養士につきましては、その表にあるとおりでございます。以上です。

○澤委員長 ただいまの教員の人事に関しまして、何かご質問等ございますか。

○小島委員 今回の過員とは何ですか。どのような字を書きますか。

○指導室長 過ぎる。過員。

○小島委員 過員。意味はわかりましたけれども、具体的な中身はわかりません。

○指導室長 病気休職等で正規の勤務につけませんので、そこに当然プラス1で新しい教員をつけることになりますので、病気休職の身分の方とプラス1の方と過員、1名多くついているということです。

○澤委員長 そのほかございますか。

○教育長 これですから、小学校も中学校も過員解消なのです。

○澤委員長 それで減っている。

○教育長 例えば小学校の方は学級数で言うと10ふえていますね。単純にいけば54必要になるわけですが、それが50でいいということは4名の過員解消があった。単純に言えばそういうことになります。中学校の方は学級の増減がありませんので、そういうことは2名減ということは過員解消が2名あったとこう考えています。

○五味原委員 区費の講師というのは、やはりこの4月から全で一応取ってあるのですか。

○指導室長 少人数、例えば芝小学校のような、学級に2人ずつ教員が配置されているものにつきましては、年度当初に配置してございます。

○五味原委員 それは区費。

○指導室長 区費ということになります。

○五味原委員 それ以外は途中でも構わないのですか。

○指導室長 基本的には予算の枠の中でつけるものもありますし、また学習支援員というような形

でつけているものもございます。

○教育長 昨日の小学校の入学式のときに、新1年生のところで副担任ということで紹介があった学校があったかと思います。

○澤委員長 ありました。

○教育長 あの小学校1年生の副担任は全て区費の講師でありますので、それは年度当初からついている学校がほとんどであります。ただし、どうしても見つからないとか、そういう場合が出ます。あるいは、少人数の指導に対する区費講師。これはなかなか最初からつかないというようなところもこれはあります。

○澤委員長 区費講師の方は現在何名おられるのですか。

○指導室長 今具体的な数字を持っておりませんが、小1プログラムという対応ですと、各小学校1名、学級についておりますので、その人数になります。それから少人数指導、例えば芝小学校のような各学級2名ずつという場合もございますし、それから特別に配慮を要するお子さんの学習支援のための支援員となりますと、またそこに人数が入りますので、相当な数が入っています。さらに読書、リーディングアドバイザー。

○教育長 でもあれは講師と言わないから。区費講師と言うと、免許を持っていて授業をできるというのを講師と言いますので、リーディングアドバイザースタッフとかそういうのはまたちょっと違います。

○五味原委員 簡単に言えば、学級数が37なのですから、37名の副担任がいる、それにプラスアルファがあるということですか。

○教育長 20名以上の学級ということですので、それ以下の学級もあるので、そこにはついていないのです。

○指導室長 大まかに言えば、少なくとも最低37名はいるということです。

○澤委員長 よろしゅうございますか。ではありがとうございます。

7 指導室4月事業予定について

○澤委員長 それでは資料ナンバー7ですけれども、指導室4月事業予定。この件も資料の配布をもって報告とさせていただきたいと思います。指導室長、何か特に。指導室長、お願いいたします。

○指導室長 お手元のナンバー資料の7でございますが、1点だけ今年度平成20年度に新しく立ち上げた事業について簡単にご説明させていただきたいと思います。

左側の事業名の下から四つ目でございます。教員研究奨励事業という説明会というので、4月21日でございます。平たく言えば、頑張っている先生にもっと頑張ってもらってサービスしようということでございます。研究奨励ということで、港区立の幼稚園、小中学校の教員の授業力と、それから教員の指導力全般の基本的にある資質能力の一層の向上ということで、個人とグループと両方自主的な研究を支援する事業でございます。

簡単に言いますと、個人研究が3件、グループ研究奨励が3共同体ということになります。基本的には学校や園が中心となってございますけれども、将来的には各学校をまたがるような研究のグ

ループも当然可能となつてございます。その研究に対しまして、教育委員会としまして何かごほうびを頑張ったということでお渡ししたい。そういうことによって研究を奨励していこうという、そういう事業でございます。以上です。

○小島委員 今のご説明で、そういう委嘱、進め方ということになるのですが、何か手を挙げて「私こういうのをやりたい」と言ってやるのですか。それとも、指導室の方から「こういうのあるけれどもだれかやらない」と言うのですか。

○指導室長 基本的には自主的な研修ですので、各学校や個人の方がやりたいという申し出が基本的な線だと思います。ただこれ、本区の教育の港区ということから考えますと、将来的にはこういった課題でぜひ研究してほしいというようなことも、範囲としては入ってくるのではないかと思います。

○小島委員 それを承認するのは指導室。

○指導室長 そうです、指導室。

○小島委員 ごほうびは何ですか。

○指導室長 ごほうびは研究奨励費という。

○澤委員長 これは前の藤井室長のときに、予算のところで200万ぐらいでしたか。

○教育長 30万円ぐらい。

○指導室長 個人研究が5万円、グループ研究が10万円。

○小島委員 ちょっとごほうびが足りないのではないですか。

○教育長 ごほうびではありません。これは研究に使った資料代です。

○五味原委員 資料代にもならない。

○教育長 ごほうびなどというものではありません。

○澤委員長 でも指導室長が言われたように、こういう自主的な研究をしていただいて、いろいろな幅を深くしていただくと、港区の教育にも間接的というとおかしいけれどもよい効果がある。今の制度ですと、いつまでも港区にいていただくわけではないわけですが。

○教育長 いつまでも港区にいていただける人に研究を奨励したいと思っていますし、それだけではなくて、今小学校でも中学校でも幼稚園でもそうですけれども、特に各教員は専門の教科というのを持っています。小学校は全科を教えるということに免許状はなっていますが、その中でも算数あるいは国語、社会、理科、生活、さまざまな研究教科を持っています、それぞれに全国組織の研究会、学会があります。大体が8月を中心にその学会で研究発表会が開かれるわけですが、私たちが求めているのは、そういう全国的な学会で発表するような内容の研究をしてもらいたい。その中で教員の資質向上を行う。それには資料代も当然ながらかかる。あるいはいろいろなところに自主的に勉強に行かなければならない。そういったことに対する奨励費ということになります。したがって、報告書なんなりは成果物といいますか、そういったものについても、そういう学力向上授業発表会というのは港区はやっていますので、そういう発表会でしっかりと報告をしてもらいたい、そのように思っています。

○小島委員 全国的な学力のことというと、ますます費用は少な過ぎてしまう。

○澤委員長 そうですね。5万。

○小島委員 全国にうって出る学術を勉強するのに5万円ではちょっと。

○澤委員長 そういう話ですと、個人が3件、グループが3件と言われましたか。グループでは1グループ5万円ですか。

○指導室長 個人は5万円。グループですと10万円。それから、先ほどこちよつと言い足りなかったですけども、講師を招き、研究を深めるということも入っておりますので、ちょっとごほうびというのはちょっと言い過ぎでしたけれども、教育長がおっしゃったように、やはりさまざまな方の話を聞き、将来港区のためにということです。

○澤委員長 それは講師を呼んだときの謝礼もその5万あるいは10万の中から。

○教育長 助成ですから。

○指導室長 基本的には自主的であれ何であろうと、やはり教員は研究と指導に努めなくてはいけないという基本スタンスがあります。それを助成するという意味合いです。

○澤委員長 先生方のモチベーションをエンカレッジというか奨励するという意味では、校庭の芝生化もお金かけているから、よければ大いに充実したいと思います。

ではよろしゅうございますか。

○小島委員 指導室長に。3日の初任者に期待することで、教師としての心構えですが、触りだけでも教えていただきたいです。

○指導室長 幼稚園、小学校、中学校とそれから養護教諭の方もいましたので、基本的にはやはり子どもを教える情熱と愛情、これが一番のベースにあるという話をさせていただきました。ただ、この話はどこ行ってもだれもが聞いていると思いましたので、私の方からはやはり私のこれまでの教員生活の、あるいは行政での経験の中での失敗談、特に1年目2年目の話を具体的にお話をさせていただきました。だれでも失敗から始まっていくのだということで、とにかく多く子どもたちへの情熱と愛情は持ってほしいということと、それからあとは全体の奉仕者である師ということで、使命感を子どもの視点で常に考えるということです。大人の視点ではなくて、教員の視点ではなくて、学校の都合ではなくて、子ども、地域の視点からものを180度から見えていくと、話を聞いていないのではなくて、話の聞かせ方がまずかったり、話がつまらなかったりという視点になるので、1年目からぜひそういう気持ちでいてほしいということと、3点目がやりがいのある職務です。卒業した後に、もう30いくつ過ぎたときに、久しぶりということで結婚式まで招待されますよみたいなことで体験談を話させていただいて、教師としての心構えということでお話をさせていただきました。

○小島委員 やはり子どもに対する愛情がなければ困ってしまいます。

○澤委員長 では山本課長、ほかに何かございますか。

○庶務課長事務取扱 参事、教育施策担当課長事務取扱 参事 ございません。

「閉 会」

○澤委員長 それでは、以上をもちまして閉会とさせていただきます。

次回は今月 22 日、同じく 3 時からのご予定でございます。よろしくお願いいたします。ありがとうございました。

(午後 4 時 46 分)

会議録署名人

港区教育委員会委員長 澤 孝一郎

港区教育委員会委員 五味原 康